

頑張る

農業法人

幼少のころ、祖父から教わった「道徳と経済は一体である。経営は、人とのつながりで成り立ち、生産者、販売者、消費者が満足する『三方良し』を経営理念として引き継ぐ農業生産法人「辻製茶有限公司」代表取締役の辻幸博さん(49)。宇治茶の主産地・和束町で生産から加工・販売までを手掛ける。

は明治時代から茶業を営み、同町内でいち早く茶葉摘採に茶ばさみを導入して生産量の増大に努めた。

さらに自園・自製・自販売のために経営の法人化を家族で行い、有限会社を設立した。「高品質茶の生産だけでなく、販売者・消費者の声を聞いて売れる茶を作りたい」と、自社製茶工場で煎茶の製造・販売を始めた。

87年に父の市郎さんが代表取締役を引き継いだ。98年には、てん茶製造工場を建設し、抹茶の販売も開始した。

52年に、茶業界でいち早く有限会社を設立。父の市郎さん、幸博さんの3代にわたって茶業の生産・販売の新しい取り組みを行ってきた。4代目となる息子も就農、さらに経営向上を目指す。

幸博さんは、99年に代表取締役に就任し、現在、5畝の茶園を経営する。妻の真理子さん(49)と父の市郎さんが取締役を務める。繁忙期には多くのアルバイトを雇用する。

山間地の同町は、昼夜の温度差があり高級緑茶の産地。祖父の光治さん

の温度差があり高級緑茶の産地。祖父の光治さん

農業生産法人 辻製茶有限公司

和束町



広い茶園を背景に、茶業に頑張る右から法人代表の辻幸博さんと父の市郎さん、息子の誠也さん、女性スタッフ

先進技術を次々採用

幸博さんは、祖父の経営理念を引き継ぎ、高級スーパーと共同してプライベートブランドの茶を製造販売するほか、急斜面の茶園を平たん地に改良し、乗用機械で生産の

創業者祖父の理念を次代へ

効率化に取り組んできた。また、てん茶生産に力を入れ、全農茶市場へ出荷することで、販売の有利性も活用している。

さらに、今後の茶業界の動向を見据え、農業生産工程管理(GAP)の取り組みに対応できる最新鋭の加工場を今年3月に建設して、より安全・安心な茶の生産拡大と6次産業化を図る。

長男の誠也さん(24)が1昨年に、府茶業研究所の研修を終えて就農。幸博さんは「祖父の代からやってきたことは、特別なことではない。時代の流れに沿ってきただけ」と先人に感謝し、また「経営者は世の中をより良くしていこうとする使命感、道徳観が必要」とも話す。

幸博さんは、誠也さんに対して今後の経営者として育っていくよう期待している。

▽法人所在地 相楽郡和束町釜塚玉井32、電話 0774(78)4188。